

I 学校教育目標

共に育つ ～ 考えをみがく 心をみがく 仲間とみがく ～

Table with 4 columns: II 前年度に残された課題, III 本年度の重点課題, IV 来年度に残された課題, and a detailed text area for each category.

Main evaluation table with 6 columns: [2]具体的達成目標と評価指標, [3]自己評価, [4]外部アンケートの分析, [5]自己評価, [6]学校関係者評価, and a left-side column for item numbers (1, 2).

③	○学習活動において、考えたことをノートやプリントにまとめ、それを整理して分かりやすく友達に伝えるような活動を設定する。	B	・学習活動において、考えたことをノートやプリントにまとめ、それを整理して分かりやすく友達に伝えるような活動を設定することができた。 【積極的意見50%】	・自分の考えを、クラスの友達に分かりやすく話することができた。 【肯定的意見64%（中間）→71%（年度末）】	・お子さんは、学習活動を通じて自分の意見や考えを言うようになってきましたか。 【肯定的意見85%】	B	・学習活動において、考えたことをノートやプリントにまとめ、それを整理して分かりやすく友達に伝えるような活動を設定することができた。 【積極的意見61%】【肯定的意見100%】 *否定意見は0%であるが、消極的意見が39%を占めている。児童の肯定意見は中間期に比べて上昇している。 ・人権教育部が中心となって校内研修を進めて各教員の人権意識のさらなる向上を図る。各々の教員は、あらゆる教育活動において、児童が考えや思いを表出する場の設定を行う。また、児童が自身を安心して表出できるように学級環境を整える。	・児童アンケートの結果が中間の時よりもよくなっている、改善が図られていると思う。今後は、ICTを活用してオンラインで即時的に意見交流しついでるようになることも大切になってくると思う。教員の評価が児童、保護者の評価に比べて低いが、今年はコロナ禍の中での教育活動であり、普段とは違った教育活動となってしまったことで、教員にも忸怩たる思いがあったと思う。来年度に期待したい。	
④	○「学校生活のきまり」や「交通安全のは・ひ・ふ・へ・ほ」を用いて、ルールやマナーを守るための大切さを伝え、児童らにルールやマナーを守ることを理解させる。 ○児童に関する情報を共有するための会議を毎月開催し、全職員で共通理解を図る。	A	・「学校生活のきまり」や「交通安全のは・ひ・ふ・へ・ほ」を用いて、ルールやマナーを守るための大切さを伝え、児童らにルールやマナーを守ることを理解させた。 【積極的意見79%】 ・児童に関する情報を共有するための会議を毎月開催し、全職員で共通理解を図ることができた。 【積極的意見83%】	・学校生活のきまりや交通安全ルール、友だちとの約束を守った。 【肯定的意見91%（中間）→90%（年度末）】	・お子さんは、家でのきまりや交通安全ルール、友達との約束を守ることができていますか。 【肯定的意見93%】	A	・「学校生活のきまり」や「交通安全のは・ひ・ふ・へ・ほ」を用いて、ルールやマナーを守ることを大切さを伝え、児童らにルールやマナーを守ることを理解させた。 *教員の否定意見は0%で、児童、保護者の肯定的意見の割合も高く達成できたと考える。積極的意見の割合をさらに上昇させていきたい。 ・児童に関する情報を共有するための会議を毎月開催し、全職員で共通理解を図ることができた。 【積極的意見79%】【肯定的意見100%】 *教員の否定意見は0%であり、年間を通じて積極的意見の割合も高く、達成できたと考える。生徒指導部を中心にケース会議の仕組みを充実させたため、情報共有の機会が、ふえた。今後も教員間で児童に関する情報共有を図り、きめ細やかな指導を心がけたい。	・生徒指導部を中心に始めた、廊下歩行徹底のための各学級制作の注意喚起コーン設置の取組や、黙々清掃見回りの取組を継続させ、児童の規範意識の向上を図る。 ・児童の情報共有の充実を図り、学校全体で児童の見守りや指導を行う体制を整える。	・三者とも評価が高く、しっかりとした教育がされていると思う。ルールを守ることは社会に出たときに必要なことなので、学校でしっかりと身につけてほしい。 ・児童について教師間で情報共有することはとても大切だと思ふ。個別指導している教師と全体指導している教師がその児童について共通理解していることで、その児童について適切な指導をすることができると思う。
⑤	○教育活動全般を通じて、相手の立場を思いやった丁寧な言葉遣いをするように、児童に指導する。 ○ふれあいタイムや委員会活動、クラブ活動などで振り返りノートを記入する場面を設定し、自己の成長を確認したり良さを認めたりする機会を設ける。	A	・教育活動全般を通じて、相手の立場を思いやった丁寧な言葉遣いをするように、児童に指導することができた。 【積極的意見83%】 ・ふれあいタイムや委員会活動、クラブ活動などで振り返る場面を設定し、自己の成長を確認したり良さを認めたりする機会を設けた。 【活動を見合わせたため評価なし。】	・学校の先生、友達、近所の人に、ていねいな言葉を使った。 【肯定的意見84%（中間）→84%（年度末）】	・お子さんは、近所の人や教員、友達に対して丁寧な言葉を使っていますか。 【肯定的意見84%】	A	・教育活動全般を通じて、丁寧な言葉遣いをするように、児童への指導を継続していく。また、教員自身が児童のお手本となるよう、正しく丁寧な言葉遣いをするように、職員会議等で呼びかける。 ・様々な教育活動において、児童の自尊感情の醸成を図ることを意識した働きかけの充実を図っていく。	・三者とも評価が高く、しっかりとした教育活動がされていると思う。挨拶の励行などは、周りの大人たちがあきらめずに挨拶をし続けることで子どもたちからの挨拶も帰ってくると思う。教員をはじめ、まず周りの大人たちから子どもたちへ挨拶をしていくことが大切だと思う。 ・子どもたちが自己成長を感じることは自尊感情の獲得につながると思う。自尊感情は有意義な社会生活を営むために必要な社会性であるので、学校教育でしっかりと身につけるように指導してほしい。	
⑥	○ふれあいタイムなどの異学年交流を通じて、立場の違う者への思いやりの心を児童に育む。	B	・思いやりの心を児童に育むために、ふれあいタイムなどの異学年交流を通じて、立場の違う者への配慮の必要性を指導することができた。 【活動を見合わせたため評価なし。】	・ふれあいタイムで、ちがう学年の人と協力することができた。 【肯定的意見90%（年度末）】 ・年下の子を大事にし、年下の子からしたわれたり、たよられたりした。 【肯定的意見65%（中間）→75%（年度末）】	・お子さんは、違う学年の子とも仲良くしていますか。 【肯定的意見90%】 ・お子さんは、年下の子を大事にしようとしていますか。 【肯定的意見93%】	B	・思いやりの心を児童に育むために、ふれあいタイムなどの異学年交流を通じて、立場の違う者への配慮の必要性を指導することができた。 【積極的意見79%】【肯定的意見96%】 *教員の否定的意見は4%であり、また、積極的意見も8割近くあることより、概ね達成できたと考える。児童の肯定的意見が中間期と比べて10ポイント上昇している。たてわり活動のみならず、人権教育や道徳教育、学級活動等あらゆる場面を捉えて、児童に思いやりの心を涵養することができた。児童の肯定的意見の割合のさらなる向上を目指し、学校全体として取組を進めていく必要がある。	・他者、特に立場の弱い者への共感をもたせ、たてわり活動の継続も含め、人権教育や道徳教育など、全ての教育活動を通じて児童に涵養していく。	中間期に比べて児童の評価が上がっている、教育の成果が表れていると思う。たてわり班活動が再開されたことが、児童らに良い影響を与えていると思う。異学年で交流ができるたてわり班活動はとても良い取組なので、今後も継続してほしい。

